

新実戦グローブ大会ルール

～顔面にヘッドギア、手にグローブ着用、しかしキックボクシングではないあくまでもグローブ空手！～

◎ **試合方式** = 顔面にヘッドギア、手にボクシンググローブ（小学3～6年…8オンス、中学生…12オンス、高校・一般…14オンス）を着用。
手による顔面攻撃を認め、反則個所以外全てに直接打撃し勝敗を競う個人戦トーナメント。

◎ **防具** = 脛足甲ガード、金カップ、マウスピース。

◎ **時間** = 小学～中学生…1分30秒。 高校生・一般…2分。

◎ **勝敗** = 一本勝負。「一本勝ち又は技有り2つで合わせて一本」。

○ 上段への攻撃 …正確な裏拳、鉤突き、上げ突きなどは特に認める。
…正拳は強烈に当たったもの以外正確打として認めない。

○ 中・下段への攻撃 …相手にダメージを与えた場合。

★正確打とは（上段のみ）… 伝統技保持の為、当たった後正確な「引き」のある手技及び蹴り技をいう。

■ **一本勝ち** ○ 「相手にダウンを与えた場合又はそれに近い体勢を崩す程の技」。

■ **技有り** ○ 「一本技にはならないが正確打と見なされた技」(上段)。ダメージを与えた場合(中・下段)。
○ 相手の技を捌いて倒し、「寸止め」による極め技。
○ 「正確な相打ちは双方へ与える」。
○ 「相手の場外減点、反則減点により格上げになったもの」。
○ 正確な上段蹴り。

■ **判定** ○ 時間切れ同ポイントの場合、一方的な攻撃、相手の技を捌いての「寸止め」による極め、無防備な個所に入った正確な技など、又服装の乱れ、呼吸の乱れ一つでも考慮し、審判団は本戦決着の判定を出すものとする。
★最近、蹴り上げた足を引かずにそのまま足先だけで2度・3度と蹴る選手がいますが、これは仮に相手にダメージを与えても技とは認めません。

■ **延長** ○ 原則として無し。ただし上記判定材料などを考慮してもなお甲乙つけがたい白熱した試合に限り審議の上、1分以内の延長を与える事もあるが、「差がついた」と判断された時点で「勝負あり、それまで」となる事もあり、1分になった時点で必ずどちらかの選手に旗を上げる事とする。
それでも引き分けの場合は体重判定とし、1gでも軽い方(又は、級・段の下の方)を勝ちとする。

■ **反則** ○ 後頭、喉、急所、頭突き、顔面への肘打ち、首相撲。
○ 掴みながらの攻撃。
○ 背後からの攻撃、又は相手の技を捌いての極め技でも正面からの攻撃と同等以上の攻撃。
(1回目で「減点1」となり、「相手に技有り」を与え、2回目で「失格負け」。初心的選手およびクリンチは1回のみ警告。)

■ **場外** ○ 場外とは、直線的・一方的に出た場合。(双方攻撃中おもわずラインを踏んだ位では取らない)
(1回目で「注意1」、2回目で「減点1」となり、相手に「技有り」を与え、3回目で「失格負け」となる。)

■ **注意事項** ○ 反則、場外とも双方同時の行為は双方に注意・減点を与える。
○ 「注意1」を取られても、後半の攻撃によりそれを挽回することができる。

■ **主審1・副2審制** ○ 主審50%、副審25%(1人)。2人の副審が同一選手に上げても主審は引き分けにすることが出来る。
○ 覆したい場合は時計を止め、副審と協議する。
○ 「見えない」表示の副審は判定の中に計算しない。